

平成26年第8回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成26年7月22日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成26年7月22日	開会 閉会	1時30分 4時47分	
場 所	商工会館2階 会議室			
出席委員	委員 長 委員長職務 代理者 委 員	鮎川志津子 福元 弘和 渡邊 恭秀	委 員 教 育 長	岡村理栄子 山本 修司
欠席委員				
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 生涯学習部長 庶務課長 学務課長 学務課長補佐 指導室長 指導室長補佐	天野 建司 西田 剛 関 次郎 鈴木 剛 河田 京子 河合 雅彦 高橋 良友	指導主事 生涯学習課長 図書館長 公民館長 選定委員長(小金井市第一小学校長) 選定副委員長(小金井市第三小学校長) 庶務係長	平田 勇治 石原 弘一 上石 弘美 前島 賢 今城 徹 田尻 洋二 中島 良浩
調 製	中島 良浩			
傍聴者 人 数	25 名			

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 24 号	平成 27 年度小金井市立小学校使用教科書採択について
第 3	議案第 25 号	平成 27 年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択について
第 4	報 告 事 項	1 その他 2 今後の日程

鮎川委員長 皆様こんにちは。
ただいまから、平成26年第8回小金井市教育委員会定例会を開会する。
日程第1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、渡邊委員と岡村委員にお願いする。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

鮎川委員長 次に、日程第2、議案第24号、平成27年度小金井市立小学校使用教科書採択についてを議題とする。
提案理由を説明、お願いする。

山本教育長 提案理由についてご説明する。
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第6号の規定に基づき、平成27年度小金井市立小学校使用教科書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。細部については担当から説明するので、よろしくご審議の上ご採択賜るようお願い申し上げます。

河合指導室長 指導室長である。
平成27年度市立小学校使用教科書の採択についてであるが、小金井市立学校使用教科書採択のための調査研究に関する要綱及び同細目に基づいて調査研究を進めてきた。各学校における調査研究、各学校長から推薦された委員で構成された調査研究委員会における調査研究が行われた。さらに、それらをもとに選定調査委員会の正副委員長、調査研究委員会の正副委員長、保護者会の代表、教育委員会の事務局等で構成された選定調査委員会で調査研究を行った。
その結果をまとめたものが配付した選定調査資料である。選定調査資料は各教科の教科書会社ごとに作成している。以上である。

鮎川委員長 それでは、選定調査委員長、副委員長に私どもが質問し、お答えをいただいで理解を深めてまいりたいと思う。なお、私どもは選定調

査資料を事前に拝見し、研究していることから、教科書各社ごとの説明については、報告書全てではなく特徴的なことに絞ってご報告していただきたいと思う。このつくっていただいた選定調査資料、どうもありがとうございます。とても詳しく書かれており、私たち教育委員全員でじっくり各自読んでまいった。かなりの理解は深まっていると思う。

それでは、今申し上げたような形で特徴的なことに絞って報告をしていただきたいと思うが、いかがであるか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 では、ご異議がないので、そのように進行させていただきたいと思う。また、最初に申し添えるが、私どもは事前に全ての教科書を拝見し、調査研究を、各自で進めていた。では、よろしく願います。

今城選定
委員長 それでは、初めに国語から説明をさせていただく。国語は5社出ている。

まず初めに東京書籍である。東京書籍の特徴的なところをご報告する。まず本の紹介、「本はともだち」というのがある。この選書が発達段階に合っていてバランスもよく、適切である。また、作者のコメントが載っているので、児童は本を身近に感じられ、興味を持ちやすくなっている。また、各単元の初めには「つながる」として、既習事項との関連が単元の終わりには「ひろがる」として、発展的な学習が書かれていて、単元とのつながりがわかりやすくなっている。

続いて学校図書である。学校図書は物語文に名作が多く、児童の心を養う上でも有効であり、児童に人気の読み物が巻末に紹介されている。また、漢字のへや、言葉の決まり、言葉のいずみのコーナーが発達段階に合っているということになる。

続いて三省堂である。物語文では日本文学、外国文学がバランスよく取り上げられている。また、大單元の中には複数の領域の内容が配置されており、バランスがよく、特に読むと書くが繋がっているという特徴がある。

続いて教育出版である。書くことの単元では作文の書き方が低学

年から丁寧に扱われており、段階的に力を伸ばせるようになってい
る。卒業を迎える時期の単元には、日野原重明や司馬遼太郎のメッ
セージが取り上げられている。

光村図書である。言語活動の作品の難易度が適切であり、そして
さまざまな言語活動の事例が掲載されている。また、手本となる文
章に中略がなく、全文を取り扱っていて、とてもわかりやすくなっ
ている。また、この本を読もう、本の紹介ページには、発達段階に
合った本が多く紹介されているというものである。国語は以上であ
る。

鮎川委員長 それでは、質問がある方はお願いします。

福元委員長
職務代理者 学習指導要領では、言語活動の充実が重点の1つとされている。
各教科書ではどのように扱われているのか教えてほしい。

鮎川委員長 お願いします。

今城選定
委員長 全ての教科書でそれぞれの領域に言語活動が取り上げられており、
非常に見やすくなっている。説明や報告をする、メモをとって聞く、
話し合い、手紙を書く、記録を書く、調べたことをまとめるなど、
言語活動が多く取り上げられている。5社ともに取り上げられてい
る量に大きな差はない。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問ないか。では、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 市内の学校では読書活動を盛んに行われているが、読書活動の充
実との関連というのはあるか。

今城選定
委員長 読書活動との関連ということであるが、読書の指導は国語の授業
で扱うものである。教科書で学習した作品からさらに興味を持たせ、
発展教材として読書を行わせるように工夫されている。文学的な文
章、説明的な文章の作品数が多いのは光村図書である。学校図書と
光村図書については、文学的な文章と説明的な文章の作品の数に偏
りが無い。以上である。

鮎川委員長 では、岡村委員、お願いします。

岡村委員 教材や資料の確かさとか、わかりやすさは、おのおのの教科書、
どうであろうか。

鮎川委員長 お願いします。

今城選定
委員長 どの教科書会社も、絵や写真などのわかりやすい資料がその単元
の内容に合わせて掲載されており、児童が理解しやすいものっている。
中でも、東京書籍、三省堂、光村図書では書くことの単元にお
いてノートのマスや罫線に手書きの手本が書かれており、指導しや
すくなっている。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問ないだろうか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見をお願いします。では、渡
邊委員、お願いします。

渡邊委員 先ほどお聞きしたとおり、やはり図書との関連を考えると文学的、
それから説明的な両面を兼ね備えている光村図書のほうが、偏りが
なくてよろしいのではないかと思う。

鮎川委員長 今渡邊委員からこのようなご意見が出たが、ほかの皆様、いかが
か。福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者 今、委員長からの説明にもあったが、光村の文学作品に引かれて
いる。昔からある有名な作品が多いということや、子供の興味・関
心を引くようなものが多いように受けとめている。発展教材として
の作品数が多いということだったが、単元に応じて本を紹介してい
る、単元ごとに紹介している。小金井の子供たちは非常に読書能力
が高いと受けとめている。その子供たちがかかわるのに、やはりふ
さわしい教科書なのではないかと受けとめた。

鮎川委員長 岡村委員、お願いします。

岡村委員 小金井ですごく読書を子供たちがしているというのを聞いてとてもうれしく思っているが、最近の子供たちは言葉を知らないとか、語彙が少ないとかよく言われている。私も子供たちと接してときどき感じるのだが、小学生のこの時期にたくさんの新しい言葉を知ってほしいが、教科書によって何か特徴があるのか。

鮎川委員長 山本教育長、お願いします。

山本教育長 私は中学校の国語科の教員をずっと続けており、国語教育の研究にも長いこと携わっていて、そういう目で改めて小学校の教科書を全部丁寧に読ませていただいた。今岡村委員が質問された、たくさんの言葉を獲得してほしい工夫ということで、私は光村図書の教科書も大変いいと思ったが、東京書籍が非常に特色があると思った。

それは何かというと、6年生の巻末に1年生から5年生までの全て今まで習った既習の漢字の一覧表が載っている。そこは、ほかの4社は、その一覧表は全部音読みの「あいうえお」順で漢字が1回ずつ出てくる。そして、その説明もそんなに詳しくないのだが、東京書籍の場合は音読みも訓読みも全部出てくる。

だから、例えば幸せという漢字を書こうと思った子供が、幸せという読み方を知っているんだけど、「コウ」というところにか出てこないから調べることができない。それで、幸せというところを見ると、読み仮名も全部書いてある。明る이었다ら、「あかるい」「めい」「みょう」「あける」と4回出てくる。大変丁寧にできて、しかも、その一つ一つについて例文が載っている。だから、子供たちがそれを読んだときに多くの言葉、知らない言葉の使い方なんかを学ぶことができるという、先ほど岡村委員のおっしゃったその質問に答えられる特色があるのは東京書籍だなと思ったわけである。

これは、実際に教室で使う子供たちの身になって編集された漢字の一覧表というのは、この1社だけだったので、私は大変感銘を受けた次第である。

鮎川委員長 今山本教育長が国語をご専門でいらっしゃるというところから、岡村先生の疑問に答えていただく形であったが、小学校のほうですらのご指導いただいていた福元先生、何かご意見あったら、お願い

する。

福元委員長
職務代理者

小学校の教科書を見たときに、言葉の数というか、語彙というか、それにはほとんど大きな差はないと受けとめている。大事なのは、子供がどれだけ言葉に興味を持つかということと、使ってみたくてという気持ちになるかということだろうと思う。そこへの指導が大事なんだろうと思う。教科書によって言葉の広場的に全ての教科書で指導している。特に光村図書にはユニークな名前、言葉の宝箱とか、名前をつけて、子供の興味を引き出そうとするような工夫を強く感じた。言葉にどう関心を持たせて、使いたいという意欲を持たせていくかということで教科書を見ていけばいいのではないかと思う。

鮎川委員長

山本教育長、お願いします。

山本教育長

これまで何度か教育委員で行った勉強会の中でも言わせてもらったが、光村図書がよいのではないかというご意見が多いのは重々承知していながら、あえて東京書籍のよさというものがほかにも幾つかあったので、ここでも発言しておきたいと思う。それはなぜかということ、PISA型学力という言葉が言われ、言語活動の重要性ということが言われている中で、言語の力を子供たち一人一人にしっかりとつけさせていく必要があるんだと、これからの国語の授業ではと言われながら、私も今までの研究会にたくさん参加させていただいたが、なかなか言語の力を明確に子供たちに身につけさせようと意図的に授業展開しているものというのはなかなか見ることができなかった。

そういう意味で、教科書、5社をほんとうに真っ白な気持ちで眺め渡したのだが、話す力、聞く力、書く力、読む力という言語技能というものを全ての子供たちにしっかりと身につけさせるんだという意図が明確に感じられたのが東京書籍の教科書なのである。特に学習の手引きのところ、今までほかの4社だと印象に残ったところを書きましょうという書き方をしているのだが、東京書籍の場合には、印象に残るといのはそもそもどういう意味なのかと、どういう視線で、どういうやり方で読めばいいのかと、そこから解説が始まるような文章が幾つも目について、編集方針として非常に今後の国語の指導方法にのっとなっているなと感心したわけである。

それから、先ほど漢字の話をしたが、教材の扱い、教材の取り上げ方にも、新しい教材が幾つもある、私なんかも小学校5年生の手塚治虫物語なんかを読んでいて、非常に今の子供たちに国語の授業でこれを教えたなら楽しい国語の授業ができるのだろうなと思った。光村と東京書籍の2つがいいと思っていたのだが、非常に特色があるのは東京書籍で、私はこちらのほうが気に入っている。

鮎川委員長

国語のご専門でいらっしゃる山本教育長の後で、市民の目から意見を申し上げる。保護者代表の方から、お子様が国語の教科書を音読しているときのご感想として、物語は子供も理解しながら読んでいるようだが、説明文などは声に出しているけれども、きちんと理解ができていないように感じることもあるというご意見をいただいた。

物語と違って説明文というのは、声に出す、出さない、どちらにしても、読んだだけで頭に入っていないことも多々あるかと思う。東京都教育委員会の調査研究資料によると、説明的な文章中において図表、写真などを取り上げている数が比較されており、光村図書が270超と、断トツで多い。子供にとって写真や図などで補助的に理解を助けるものは必要と感じている。

また、例えば光村図書の3年生の教科書の中で、「姿を変える大豆」という説明文がある。先ほど山本教育長も国語の学習について、読む力、書く力、話す、聞く力などが大切だというお話があった。この説明文、「姿を変える大豆」の後に、書く学習、食べ物の秘密を教えるという教材が配置されている。大豆の学習は国語以外の生活などでも取り扱っている学校も多いかと思うが、このような身近なものを題材として、説明文を読むだけではなく、実際に自分で説明文を書くという、発展的に進めていくという工夫がされている。説明的な文章と各学習とが体系的につながって、すばらしい学習展開になっていると感じた。私が教科書を拝見して思ったところである。

ほかの皆様、ご意見はいかがか。岡村委員、お願いします。

岡村委員

全然違うことなのだが、教科書というのは上下2冊のものと、途中から1冊になったりするが、使いやすさということではどうか。

鮎川委員長 確かに昔は上下に分かれているものが多かったのだが、最近はこの上下ではなく、各学年1冊という教科書が増えてきたと思う。その使いやすさについて、どなたか。福元先生、願います。

福元委員長
職務代理者 上下に分かれていると運びやすいとか、持ちやすいという利点はあるが、高学年になってくると、前の学習を振り返って学習することが結構出てくる。そういうことを考えると、1冊であって、その場ですぐ前の学習に戻れるという利点もあるのだということを感じている。

鮎川委員長 どうであろう、岡村委員。

岡村委員 いろいろな教科書が何冊もあるので、やっぱりそうなのかなと思った。

また光村のところに戻ってしまって申しわけないが、私は光村の4年生のところの椎名誠著の文章での「プラタナスの木を切って、それを子供たちが自分が枝になるんだ、木になる、葉っぱになるんだという」文章が、最近一小の木を切ったばかりなので、ああ、この教科書、小金井にいいかなと思った。ほんとうにそう思った、途中で話の腰を折って済まない。これはぴったりだと思った。

鮎川委員長 ほかに皆様、ご意見等あるか。特にないようなら、今お話を伺った中では、山本教育長が東京書籍と光村図書。東京書籍が1番良いとのご意見があった。

鮎川委員長 ほかの皆様は光村図書が良いということであるが、いかがか。山本教育長。

山本教育長 光村図書もいい教科書なので、私は賛成する。

鮎川委員長 国語の専門である山本教育長の東京書籍というご意見もあったが、今皆様の意見を整理していくと、光村図書がよいという意見が多く思う。国語の教科書は光村図書ということによろしいか。

山本教育長 結構である。

鮎川委員長 特にご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 それでは、皆様ご異議なしということで、国語の教科書は光村図書と決定する。

では、次に書写の説明をお願いします。

今城選定
委員長 それでは、書写の説明をさせていただく。書写は6社である。まず初めに東京書籍である。東京書籍は毛筆の初期段階では姿勢や道具の使い方の説明がはっきり書かれていてわかりやすいこと、書写にとどまらず、実生活や他教科の中での文字や文の書き方、道具の使い方に迫っているというところがある。

続いて学校図書である。とめや払いなどのポイントがわかりやすく、見やすく適切であるとともに、各学年とも学習のめあてが目次のページに明示されているというところが特徴である。

三省堂である。名詞だけではなく、動詞も毛筆教材として取り上げられている。また、硬筆の学習では教科書に書き込める欄が多く設けられているというところが特徴である。

教育出版である。毛筆だけでなく、いろいろなパターンの書き方や筆記用具の使い方が載っていて興味を持ちやすいところ。トライ、チャレンジのコーナーで、学習したことが実生活にもつながるようになっていて興味深いという点がある。

光村図書である。毛筆だけでなく、いろいろなパターンの書き方や筆記用具の使い方、手紙の書き方が載っている。また、大切というコーナーがあり、この箇所が設けられており、書き方のポイントをまとめてあり、非常にわかりやすいという特徴がある。

日本文教出版である。毛筆だけでなく、いろいろなパターンの書き方や筆記用具の使い方が載っていて、こちらも興味を持ちやすいものとなっている。また、考えるとか、確かめるとか、書いてみる(生かす)というようなステップで学習させる点がわかりやすいという特徴になっている。以上である。

鮎川委員長 それでは、質問のある方はお願いします。岡村委員、お願いします。

岡村委員 文字を正しく整えて書くために子供たちがよくわかるような、具体的な工夫についてどの教科書が充実していると思われるか。

今城選定
委員長 1年生の硬筆では、なぞり書きから始めるように工夫されている。また、毛筆では3年生の導入において筆のおろし方とか、穂先の整え方とか、丁寧に指導されている。写真が入り、見やすく、使いやすくなっている。また、姿勢や用具の持ち方、使い方の指導、これらについては三省堂、そして光村図書が多くのページを使っているという状況である。

鮎川委員長 ほかにご質問あるか。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 学習した内容が特に日常生活でも生かされるような、そういった教科書の中で工夫というのはあるか。

今城選定
委員長 日常化ということであるが、東京書籍、三省堂、光村図書、日本文教出版においては、3年生以上において毛筆で学習したことを日常でも生かせるように、硬筆に広げられる内容が掲載されている。以上である。

鮎川委員長 山本教育長、お願いします。

山本教育長 子供によっては書くことに対して非常に苦手な意識を持っている子供というのもたくさんいると思う。そういう子供に対して、興味・関心を引くような工夫というのはいかがであるか。

今城選定
委員長 毛筆だけではなく、いろいろなパターンの書き方や筆記用具の使い方が掲載されていて、興味を持たせる工夫を行っているところがある。中には、鉛筆や硯、消しゴム判こなど、道具にスポットを当てることで書くことへの関心を高めている教科書会社もある。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問あるか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。
では、渡邊委員、願います。

渡邊委員

光村図書の2年生以上に巻末に載っている「もっと知りたい」というコーナーがあるが、発展的な取り扱いなのだが、書写に関して興味か関心を高めていく工夫がされており、私はよいと思った。

鮎川委員長

ほかにご意見あるか。では、福元委員、願います。

福元委員長
職務代理者

国語の教科書が光村図書ということで、その関連を考えると、光村図書のほうがよいのではないかなと受けとめている。

鮎川委員長

ほかにも。岡村委員、願います。

岡村委員

私も光村図書がよいと思うが、教科書、各社いろいろかわいい動物、キャラクターがついているのだが、光村だと独自のキャラクターが視覚的によく使われていて、ゆりの「ゆ」というところの「ゆ」の「り」というところに「ゆ」から「り」までが、鳥が飛んでいる形になっていて、よく工夫してあるな、よく動きが出ているなと思って、光村がいいなと思った。

鮎川委員長

山本教育長、願います。

山本教育長

子供にとって書写の授業が楽しいというような教科書はないかと思って見てみたのだが、光村がやっぱり工夫されているのは、姿勢を示すときの説明の中に「足はぺったん、背中はぴん、おなかと背中にぐー一つ」なんて、言葉遊びを入れている。それから、鉛筆の持ち方なんかについても言葉遊びを入れて、丁寧に正しい持ち方というものを指導してるのも光村図書だけだった。

ところが、東京書籍のほうもやっぱり同じように、毛筆のときに、「とん、すー、びた、すー」とか、そういう擬声語というか、そういう言葉を入れながら筆の運びを説明している。これも楽しい教科書で、やっぱり先ほどと同じように東京書籍と光村図書というのは、なかなか子供たちの気持ちを考えながら教科書をつくっているな

と思った。結論としては、私は光村図書でいいと思う。

鮎川委員長

今、おなかと背中にぐーを入れて姿勢を正した。

ほかにご意見あるか。皆様、光村図書がよいというご意見と思う。その他、補足ご意見等ないか。では、光村図書がよいというご意見が全員から出されているので、書写の教科書は光村図書ということによろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

では、皆様異議なしということで、それでは、書写の教科書は光村図書に決定する。

それでは、続いて、次に社会の説明をお願いする。

田尻副委員長

副委員長の田尻のほうから社会について説明をさせていただく。4社ある。それぞれの特徴を申し上げる。まず東京書籍であるが、イラスト、写真、色分け、文字の大きさ、実物写真の多用など、資料からの読み取りを作成をしてまとめるなどの工夫が見られる。また、問題解決的な学習展開ができるよう工夫されている。特に「深める」では今の社会問題を取り上げるなど、児童が社会に目を向けやすいようになっている。

続いて、教育出版である。学習問題づくりから、学習を深めるところまで問題解決的な学び方や調べ方、ポイントが巻頭に詳しく示されている。また、資料が豊富で写真も多く、視覚的に理解しやすくなっている。資料そのものから児童の気づきを促されるものが精選されている。

続いて光村図書である。ホップ（見つける）、ステップ（調べる・話し合う）、ジャンプ（まとめる・広げる）と、学習段階が分けられており、毎時間同じサイクルで学習に取り組むことができる。5・6年の上下巻が合本されており、振り返りがしやすくなっている。グラフの色分けや模様など、視覚的にわかりやすく工夫されている。また、子供のイラストを使って児童の疑問や考えが多く取り入れられている。

日本文教出版である。単元の最後に大きくジャンプのコーナーがあり、学習した内容を深めることができる。3・4年の地域学習で

の地域の実態を生かした学習にも転用しやすいよう、工夫されている。資料、写真、地図、イラストが多く掲載されていて、グラフも色別になっている。また、最新の数値（2013年）が使用され、大切な文字が太字になっていて大変目立つ。以上である。

鮎川委員長 それでは、皆様、ご質問あるだろうか。山本教育長、お願いする。

山本教育長 昨今、我が国の位置や領土をめぐる問題については盛んにマスコミ等で報道されているが、学習指導要領に基づいてこれらの問題を理解できるようにすることが求められているので、教科書の扱い方についてはこの点いかがか。どうまとめていらっしゃるか。

田尻副委員長 第5学年の全ての教科書で我が国の位置と領土について学習している。地図を用いて北方領土に関して、竹島に関して、尖閣諸島に関して、その他、領土の範囲などに関してしっかり取り扱っている。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問あるか。では、岡村委員、お願いする。

岡村委員 子供たちが学習意欲がないとか、社会に対しての興味・関心がないとか、今いろいろ言われているが、おのおのの教科書では、子供たちのそういう意欲を出すためにどういう工夫をされて、教科書ごとにどういう差があるのか。

田尻副委員長 社会の重要なポイントである問題解決学習を進めるために、児童の興味・関心を高める、先ほどもお話ししたが、ホップ、ステップ、ジャンプというような段階的な学習ができるための工夫がそれぞれの各社でされている。

また、学習課題を採求するキャラクター、東京書籍はドラえもんを使っているが、あるいは教育出版等はコウタ、ヒロキ、ハルナ、マナミという、そういったキャラクターを設けたり、写真や表などの視覚資料を豊富に取り入れたりするなど、配慮が十分にされている。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問はいかがか。渡邊委員、お願いする。

渡邊委員 環境にかかわる諸問題を学習指導要領に基づき考察したり、その問題を理解させるために一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱いについて、教科書ではどのような特徴となっているか。

田尻副委員長 特に4年生の水道や電気についての単元でエネルギーについて学習している。各教科書では、一次エネルギー、再生可能エネルギーの扱いについても紙面を工夫した構成となっている。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問はないか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。山本教育長、願います。

山本教育長 国際的な人間を育てることが大切だと言われているが、私も自分の体験からいっても、外国などに行くと、自分の国の特色ある文化についてよく知っていたり説明できたりすると、その国の人たちとの交流が一層深まるという体験をしている。私は日本の伝統文化について、子供たちに自信を持って日本にはこんなに素晴らしい歴史ある文化があったんだということを教えることが社会科の授業で大切だと思っているが、そういうところで詳しいのが教育出版だったのかなと思った。

鮎川委員長 ほかの皆様、ご意見いかがか。福元委員、願います。

福元委員長 先ほど教科書の問題解決的な学習について話があったが、そういう視点から見たときに東京書籍や教育出版は学習課題の把握、活動、まとめなど、問題解決的な学び方や、調べ方、ポイントがわかりやすく示されていて、いいなと思っている。

鮎川委員長 ほかの皆様、いかがか。岡村委員、願います。

岡村委員 光村図書や日本文教出版の教科書では、紙面の中でイラストがあり、吹き出しが出てい、子供の疑問を言葉としてあらわしている。それがポイントをつかむのに役に立つのではないかと思った。

鮎川委員長 渡邊委員、いかがか。

渡邊委員 全ての教科書で自然災害に関する学習等、写真とか、資料とか、豊富に載っていて非常によかったのだが、その中で特によかったのは東京書籍とか教育出版がよかったと私は思った。

鮎川委員長 私が皆様の意見をまとめ切れずにいて、済まない。渡邊委員は東京書籍か教育出版がよいと思われた。福元先生も東京書籍か教育出版がよいと思われた。山本教育長は教育出版がよいとのご意見であった。岡村先生が光村図書と、日本文教出版がよいとのご意見であった。

今まだ意見がまとまり切れておらず、教科書は全て検定を通過しているものであるし、学習指導要領にも基づいているものなので全てよい教科書だと思うが、それぞれ特徴的な部分も多々あり、絞り切れないところもあるかと思う。全員の意見がまとまっていないようだが、もう少しご意見をいただけるだろうか。

今のところ、教育出版がよいというご意見が一番多いようではある。岡村先生は教育出版よりほかの教科書がよいというわけではなく、イラストなど、見やすさの点から、光村図書や日本文教出版の2社がよいということであるか。

岡村委員 はい。写真とかはすごく教育出版も充実していると思った。

鮎川委員長 先ほど田尻副委員長からもイラストについて具体的なお説明があった。各々教科書で工夫されていると思う。どうだろうか、そうすると教育出版がよいというご意見が一番多いように思う。岡村委員、教育出版については何かご意見はあるか。

岡村委員 教育出版の5年生のところにインターネットのよい使い方というので、医療のつながりとか出ていて、それが教育的によかったと思った。教育出版で大丈夫である。

鮎川委員長 教育出版がよいというご意見が多い。東京書籍もよいのではないかとご意見も出ている。全員の方から教育出版がよいというご意見が出ているので、まとめると教育出版がよいと思うが、皆様、

いかがか。社会科の教科書は教育出版ということによろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 では、異議なしということで、社会科の教科書は教育出版に決定する。

 それでは、次に地図の説明をお願いします。

田尻副
委員長 それでは、地図について2社の特徴を申し上げる。まず東京書籍であるが、帝国書院と比べると大きい地図になっている。ということで、文字とか資料が見やすくなっている。イラストも多く、子供の興味・関心を高めることができる。地図帳の使い方であるが、2部構成になっていて、わかりやすくなっている。また、発展的な学習につながるよう、さまざまな用途に応じた学習ができるように、さまざまな資料、情報が載っている。見開きの大きな日本地図が幾つかあり、いろいろと活用できるようになっている。

 帝国書院である。地図やデータが詳しい内容まで細かく記載されているので、調べ学習などで深く活用することができる。土地の高低差もわかりやすく工夫されている。また、地図帳の地図の成り立ち、約束事や使い方が詳細に掲載されており、学習の理解が深まる。掲載されている写真であるが、鮮明で美しく、子供の学習意欲を高めることができる。以上である。

鮎川委員長 それでは、ご質問のある方、お願いします。岡村委員、お願いします。

岡村委員 両方の会社の視覚的とか、そういう構造上とかの違いを明確に教えてほしい。

田尻副
委員長 ユニバーサルデザインの観点から、書体及び色使いを配慮している。また、児童が学びやすいように地図帳の約束事や使い方を示しており、両社とも工夫されている。

鮎川委員長 ほかにご質問。福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者

学習指導要領では地図や統計など、各種の資料から必要な情報を集めて読み取る力を育てるということが重視されている。この2つの地図帳は、地図を読み取る上でどのような工夫がなされているか教えてほしい。

田尻副
委員長

まず、両社ともに、使い方についてはわかりやすく、丁寧に扱われている。帝国書院の地図帳は、日本の東西南北、排他的経済水域、近隣諸国の名称、位置、国旗など、日本とその周辺の概要を捉えることができるようにしている。また、国の範囲がわかる模式図で領域にかかわる用語の理解を助けるようにもしている。

東京書籍の地図帳は、地図や地球儀の見方、使い方として、実際の地図や写真を例として具体的に解説している。さらに広い視野から国土を見渡す地図を複数配置し、日本の位置及び範囲、領土に関する問題などが正確に理解できるようにする。鳥瞰図を取り入れ、児童が興味・関心を持って地図を見る工夫などがされている。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問ないか。よろしいか。

それでは、協議に入る。ご意見を願います。山本教育長、願います。

山本教育長

私は、これは非常に悩んだ。両方とも共通点としては、当たり前のことであるが、教科書に沿って国内から国際、海外へと配列されていることとか、資料集など、そういうものが丁寧に説明されているということがあってといいと思ったのだが、大きな違いはやっぱり大きさである。東京書籍の大きな地図というのは、見開きと折り込みのページなどもあったりして、全部開くと非常に迫力があって目に飛び込んでくる。その魅力である。

そして、帝国書院のほうは、大きさ、迫力では負けるのだが、最初のほうのこの地図帳の使い方とか、そういう説明が非常に詳しくて丁寧である。どっちが授業で使ったときにいいのかなと思って私も悩んだが、結論としては、社会科の教科書と一緒に使うということで、参考資料としては帝国書院でいいのかなと思った。

鮎川委員長

では、ほかにご意見。福元委員、願います。

福元委員長
職務代理者

私も今の意見と同じように、この帝国書院の地図帳を見たとき
地図の成り立ちと約束事、地図帳の使い方、索引等、地図を使える
ようにする、地図の使い方を身につける、そういうところが重視さ
れている。これを学習して、そういう地図の見方を身につけていけ
れば知識を定着させることができるかなと思っている。したがって、
帝国書院のほうがいいのかなと考える。

鮎川委員長

ほかの皆様、ご意見いかがか。では、岡村委員、お願いします。

岡村委員

私も帝国書院の地図帳のほうがいい色が使いが明瞭であると思った。福
元先生のおっしゃったように、地図の成り立ちを写真で見たりとか、
地図を見るだけではなくて、考えるのに役立つ地図帳ではないかな
と思って、小さいほう、帝国書院のほうがいいと思った。

鮎川委員長

渡邊委員、いかがか。

渡邊委員

私は両方とも、資料とか豊富に載っているので甲乙つけがたいの
で迷っている。済まない。

鮎川委員長

何かお感じになったことを、それぞれあったら。

渡邊委員

大きさは東京書籍のほうがいいかとは思ふ。ただ、
内容的には帝国書院のほうがいいかと思ふ。一長一
短がある。

鮎川委員長

一長一短、わかった。ありがとう。確かに大きいほうが、山本教
育長も言ったように迫力があって見やすいということがあると思
うが、展示会での市民の方のご意見の中に、大きいとランドセルに
入らないというご意見も複数あった。

渡邊委員はどちらもいいと。ほかの皆様は帝国書院がよいという
ご意見なので、帝国書院がよいというご意見が多く出されていると
思う。地図は帝国書院でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

では、異議なしということによろしいか。それでは、地図は帝国書院に決定する。

では、次に算数の説明をお願いします。

今城選定
委員長

それでは、算数の説明をさせていただく。算数は6社出ている。まず東京書籍である。東京書籍の土地は、ノートの書き方を見開きや見本型式で示しており、自分の考えを仲間に伝えやすい工夫がされていて、わかりやすかったり、また、絵がわかりやすく、考える手だてになっているというところ。さらには、振り返りコーナーが図などで加えて、わかりやすくまとめている。また、算数の自習コーナーというのがあり、こちらでは習熟に合わせた問題が適量で、そして内容も豊富にあるというところである。

続いて、大日本図書である。全体に写真がきれいで、いいものがとても多く掲載されている。3年生のはかりの写真では、大きくてくっきりとしていて目盛りが大変見やすくなっている。また、図形の色使いがとても彩色よく掲載されている。また、各学年1冊にまとめられていることで、年間を通しての学習の見通しが、先ほども出たが、持ちやすい工夫がされている。

学校図書である。学校図書は、思い出してみようというコーナーがあり、既習事項の振り返りとともに、予習としても使いやすくなっている。また、資料が社会科とリンクしている点は大変有効である。また、力試しというコーナーでは、つまずいた児童に振り返りしやすいようにページ数が表記されており、また、巻末の練習、サポート、チャレンジというのがあるが、こちらはわかりやすく活用しやすいという工夫がされている。

続いて教育出版である。教育出版は広がる算数というのがあり、こちらは発展問題と同時に他教科との結びつきを持たせる点が工夫されている。また、学びの手引きのコーナーでは、用具の扱い方や今まで学習したことが單元ごとにまとめられており、振り返りやすくなっている。

啓林館である。啓林館では、学びを生かそうというコーナーでは、こちら他教科との関連を扱っている。こちらが教科横断的な視点

からも大変有効であると考えられる。また、「発見！ 算数島」のもっと練習というコーナーがあるが、こちらでは繰り返し問題に取り組めるようになっている。

続いて、日本文教出版である。こちらは、見開きで算数ノートをつくらうというページがあり、ノート指導の際には大変有効であると考えられる。また、単元名の副題にわかりやすい文を添えることで、内容についてのイメージが持ちやすいという工夫がなされている。以上である。

鮎川委員長 ありがとうございます。それでは、ご質問あるか。では、岡村委員、お願いする。

岡村委員 算数というのは、学習したことをきちっと繰り返すことが大切だと思うのだが、教科書ごとに反復するという点に関してはどういう差があるのか。

今城選定
委員長 学力を定着させるという意味では、反復をしていくというのはとても重要であるが、これはどの教科書においても課題を解決した後、練習問題を位置づけて、反復して力をつけるコーナーを位置づけている。教科書会社によっては基礎基本の定着に重点を置いているところと、学力調査をもとに間違いの多い問題、難しい問題を反復練習させるという教科書会社がある。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問あるか。福元委員、お願いする。

福元委員長
職務代理者 算数的活動の充実というのが叫ばれているが、各教科書で算数的活動についてどのように取り扱っているとお考えか。

今城選定
委員長 算数的な活動の扱いであるが、どの教科書会社も学習の狙いが明確になるように配慮されており、児童が目的意識を持って主体的に取り組めるように工夫されている。また、教科書会社によっては、途中で既習事項を振り返るようにヒントがあるものや、学習プリントを併用するようにつくられている教科書会社もある。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問は。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 教室にはいろいろな課題を持ったお子さんがいらっしやると思うが、習熟度別少人数指導ということで取り組んでいらっしやると思うが、それぞれのお子さんに対応した個の問題に扱ったということではいかがか。

今城選定
委員長 今出た習熟度別少人数指導ということであるが、個に応じた指導をいかに充実させるかというのが非常に重視されている。どの教科書会社も、補充的な問題を多く取り上げているというのが特徴である。小さな問題の数においては約4,000、発展的な問題は20項目程度あり、個に応じた学習ができるように配慮されている。習熟度学習という点においては、どの教科書会社も適切に扱われていると思っている。使い勝手については、当然指導者、教員によっても違いがあるが、これまで使っていた教材を継続して使っていくということも非常に重要なことかと考えている。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問、いかがか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見をお願いします。では、福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者 算数は積み上げが大切な教科だとよく言われている。1年生の指導、教材というのはすごく大事にされる。そういう視点で1年生の教科書を見てみると、どの教科書も市民の声にあったように、非常にカラフルで、見やすく、使いやすくなっている。例えば幾つと幾つという単元がどの教科書にもあるが、そこを見ていると、おはじきやブロックなど、そのものを使って、手で操作しながら学習して、体験的に子供たちにそういう力を身につけさせていくという進め方をしている。それはそれでいいと思うが、学校図書がちょっとまたそこと離れたというか、視点の違った指導をしている。最初にボールを持ってきて、ゲーム的に最初学習させる。遊びながら学習させる。そして、その段階で子供の興味・関心が高まっていくわけである。そういう子供の興味・関心を引き出すような扱い方をしている。学校図書の1年生のこの教材はととてもいいなと思う。そういう目で見たいか、学校図書の教科書がよく見えてきた。

鮎川委員長 ほかの皆様、いかがか。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 分数の割り算というのはちょっと難しい算数だと思うが、子供さんがどのように理解したらよいかということで、ほとんどの教科書はテープ図というのを使っていたと思う。学校図書とか、大日本図書だけがテープ図と面積図、両方使っているので、この2社がやはり特徴があってよろしいのではないかと思った。

鮎川委員長 山本教育長、お願いします。

山本教育長 私は2冊、非常に気に入った教科書があった。それは、学校図書が1つと、それから日本文教出版というところ。日本文教出版のほうは、これを先に説明すると、教科書の横幅がほかの5社に比べて3.5センチ長い。広げたときに7センチ長い。何でこの教科書、見やすいんだと思ったら、そこなのだ。子供たちが数字がやたらに並んだりしていると、とっつきにくいんだろうけれども、そこで各会社ともいろいろな絵を載せたり、ゲーム性の何か紹介したりして工夫を凝らしているんだけれども、とても見やすい感じがして気に入った。

実はそれだけではなくて、小学校1年生のときから算数というのはおそらく理解度に差がついて、だんだん算数嫌いという子供が出てくると思う。そのところをどうやって各教科書会社は工夫して取り組んでいるんだらうという視点で見た。算数というのは1つずつ理解しながら階段を上っていく教科である。だから、どこかでつまずいてしまうと、そこが理解できないと、みんなが上に上っていても、上れなくなってしまう。国語なんかだと何とかなるが、算数はどうしようもなくなってしまう教科だと思う。

だから、スモールステップという言葉があるが、階段の高さが小さいと、子供ってついていけるんだらうなと思う。そういう視点から見ると、この日本文教出版の教科書がとてもスモールステップということを意識しながら、子供たち一人一人に確実に理解させていくことという気持ちが伝わってくるような、いい教科書だなと思った。

ただ、次は学校図書なのだが、総合的に言うと、私は学校図書がいいと思った。いいところがいっぱいある。例えば生活の中の算数

的な場面というものをたくさん紹介して、数字がこんなに生活の中で意義を持っているんだということがわかるようにしている。それから、1つの問題に対して、2人か3人のキャラクターが違う考え方を示して、どれが正しいんだろうとか、どれがいいんだろうとか考えるようにできている。これは、いろいろなほかの教科書会社もそれなりに載っているのだが、学校図書が一番そういうところが多く出ているような気がした。

それから、学校図書が一番すばらしいと思ったのは、算数的な考え方というのが世の中にあるわけであって、算数でよく使う考え方というのが3つあるんだとあって、最初表紙を開いた裏表紙のところ、そこでわかりやすく解説している。これは多分2年生から6年生までだったと思うが、ここがとてもよかったと思う。ただ算数を教えるのではなくて、どういう考え方をすればいいんだろうと。これが一番丁寧だったので、総合的に私は学校図書がすぐれていると思った。

鮎川委員長 いかがか。岡村委員。

岡村委員 そう、私もそれで学校図書がいいと思った。先生がおっしゃったとおり、私も算数的考え方というのが子供にとってすごくいいアドバイスというか、算数を勉強するのがなぜ必要かを考えさせすごくいいなと思って、学校図書はいいなと思った。

鮎川委員長 ありがとう。ほかにご意見はないか。なぜ算数を勉強するのかということについて、子供が実際の生活に役立つとか、ほかの学習に必要なだとか、役立つことがわかると、算数を好きになる子供が増えるであろう。こんなこと勉強しなくたって生きていけるという子供の言葉に対しても、こういう必要があるんだ、こういうところで役立つんだとわかることが大切だと思っている。

皆様から、学校図書がよいということだ。学校図書には確かにそのようなことがよく書かれている。先ほど調査委員長から、啓林館も他教科との関連を取り扱っていて教科横断の視点があるというご説明があった。ほかの教科書でもそのような扱いがあるところもある。ここまで、学校図書がよいというご意見が全員であったので、皆様、学校図書でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 それでは、異議なしということで、算数の教科書は学校図書に決定する。

 では、次に理科の説明をお願いします。

田尻副委員長 それでは、理科は5社ある。それぞれの特徴を申し上げる。まず、東京書籍であるが、身近な教材が多く、児童の関心を引きつけることができる。また、自然観察への誘い方が具体的な絵で示されていて、興味・関心を引く。観察や実験の後の伝え合い、説明しようというコーナーであるが、大切な活動と位置づけている。そして、昆虫の切り絵、飛び出る人体模型、巻末にあるが、知識を定着させるために活動を取り入れるなどの興味を引く工夫が見られる。

 大日本図書である。身近なことから考えさせるよう配慮されており、ジャンプコーナーで詳しく説明されている内容が児童の興味・関心に沿った内容になっている。また、環境教育への視点が明確である。単元の構成が既習事項を使って考えられるような配列になっている。自由研究のページも充実している。興味の持てる写真が多く使われているのも特徴である。

 学校図書である。学年の初めに振り子の運動と植物の発芽と成長を扱うことで実験を行う際の条件整備、条件をそろえて実験を行う、の定着を図ることができる。また、有名な科学者の言葉、4年生でいうとガリレオ・ガリレイの言葉であるが、あるいは電気が児童にとって興味深くなっている。実験で使うものが細かく例示されており、理科が苦手な教師でも使いやすくなっている。児童用の実験器具の使い方の検定が活用できる。

 続いて、教育出版である。巻頭に前年度の学習をまとめてあり、児童の振り返りがしやすくなっている。コラムが多く、資料とか科学の窓、発展的なことを学びたい児童も満足できる。写真は外から見たものと、中からのものと比べて掲載することで、よりイメージしやすくなっている。また、災害について大きく取り扱っており、防災意識を高める上で有効である。

 最後、啓林館である。観察の仕方の具体例がたくさんあり、手書き様式でとてもわかりやすくなっている。また、写真だけでなく図

を使うことでよりわかりやすくなっている。実験の手順が1ページにまとめられ、児童にとってわかりやすくなっている。付録のわくわく理科プラスを活用することで、学級の実態に合わせて事前学習や事後の学習を確保することができるようになっている。以上である。

鮎川委員長 ありがとうございます。それでは、ご質問いかがであるか。福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者 この教科の狙いに迫るために、観察、実験、体験等が一層重視されてきているけれども、観察、実験に関する扱いはどのようなになっているか教えてほしい。

田尻副
委員長 全ての会社で充実していると感じている。観察、実験を取り上げている箇所についてであるが、各社ともに観察の箇所は約50カ所、実験の箇所は約70カ所ある。実験、観察を適切に行うために実験器具の扱い方や、実験の手順について段階的にわかりやすく説明するといった工夫のある会社もある。以上である。

鮎川委員長 ほかに質問あるか。山本教育長、お願いします。

山本教育長 日本という国は資源も少ないので、科学技術立国を目指すということは非常に大切なことだと思っている。そのためにも小学校のときからの理科教育というのは、子供たちに非常に関心と呼んだり、日常生活の中で科学的な目を養うような視点からの教科書が必要だと思っているが、その辺の工夫は各会社どうなっているか。

田尻副
委員長 どの会社も、日常生活を思い起こせるような写真や文章を掲載するといったところに力を入れている。科学への興味・関心を高めるために、これまで学んできたこと、既習事項を生かして次につなげていく工夫がされている。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問はあるか。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 世の中を見てもほとんどのものができてしまっているのです、お子

さんにとって、小さいものでもいいから、物をつくり出すというか、そういったものを体験させるような扱いというのは教科書に載っているか。

田尻副
委員長

実験や観察の道具づくり、学習成果を生かしたものづくりは付録として扱われている会社がある。例えば大日本図書では、3年生、学習したことを生かしておもちゃショーを開こうというのを1つの単元にしてある。また、電磁石の授業の後、クレーンゲームとか、回る人形をつくって、楽しく学んだことを生かしたことを取り上げている会社もある。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問あるか。よろしいか。

それでは、協議に入る。ご意見を願います。渡邊委員、願います。

渡邊委員

各社とも理科に対する学習意欲を持たせるような工夫とかをされていて、非常にいいと思う。その中でも、東京書籍とか大日本図書、教育出版が私はいいと思った。

鮎川委員長

ほかにご意見、願います。岡村委員、願います。

岡村委員

私は写真の構成で大日本図書がいいと思った。5年生でメダカの雄雌を判断する学習では、写真から雄雌がわかって、その下に雄と雌がいっぱいいて、どれが雄雌と当てるとか、よくわかる写真になっているし、この会社は植物の写真などが教科書の中心になって、ぱっとうまく配列されていて、子供たちに見やすい資料ではないかと思った。

鮎川委員長

この部分であるか。

岡村委員

そう、熱心にやってみた。どっちが雄か、雌か。観察力、きまったポイントでみるのが大切だと考えさせている。

鮎川委員長

ほかにご意見願います。福元委員、願います。

福元委員長
職務代理者

6年生の水溶液の単元を見てみたのだが、問題解決学習の流れを強く意識した、構成となっているのが東京書籍とか学校図書であった。また、安全面を非常に意識しているなと思われるのが教育出版であった。ただ、この教育出版の安全面を見ていたときに、非常に細かく指示されていて、初任者の先生とか、あまり理科を得意としていないような先生にとっては非常にいいのかなとも思ったのだが、逆にベテランにとっては若干使いにくいかなと思ったりもしている。その点で見ると、大日本図書はほどよい構成になっているので、この大日本図書がいいのかなという見方をしている。

鮎川委員長

山本教育長、お願いします。

山本教育長

私も、総合的には2ついいと思ったのが大日本図書かなと思ったのだが、ぜひここで言っておきたいのが、教育出版も写真とか、図とか、実験の過程の示し方がとても効果的だなと思ったので、総合的には大日本図書なのだが、この2つのうちどちらかと思った。特にこれを私は気に入った。人体の写真なのだが。お医者さんから見るとリアル過ぎるか。

岡村委員

とてもリアルで子供達の中には苦手な子がでるかと思った。

山本教育長

お医者さんはいかがかと言ったが、私はこの実物大の体の写真を見開きで体に当てると、そのまま自分の心臓がどこにあってとかわかるというのは、親子で楽しめるかなと思って、ここまでサービスに徹している教科書は教育出版だけだったので。あと、全般的に写真とか、実験とかの図示もよかったので、教育出版いいなと思ったのだが、総合的には、よくまとまっているのは大日本図書かなと思う。

鮎川委員長

岡村委員からはちょっとリアル過ぎるというご意見もあり、かなり特徴的な部分であると思う。体の図鑑は購入すると、とても高い。5,000円ぐらいする。

岡村委員

そうである。

鮎川委員長 そこに載っているような内容が載っているという意味では特徴的かと思う。あと、福元先生から小学校では理科のご指導が苦手な先生もいらっしゃるというお話もあった。

福元委員長
職務代理人 苦手というよりも、経験が少ないということである。

鮎川委員長 小金井の場合、理科の先生がいらっしゃる学校もある。専科の先生にとっては物足りないというお話もあった。

福元委員長
職務代理人 あまり細か過ぎると、指示があり過ぎてという意味である。

鮎川委員長 ほどよい教科書が大日本図書というご意見。小金井の学校の実態を考えて、小学校での校長先生のご経験からのご意見も出ている。理科の教科書に関しては、大日本図書がよいというご意見が多数と思うが、皆様、いかがであろうか。特にご異議なしということよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 それでは、理科の教科書は大日本図書で決定する。
ただいまの時刻、3時を過ぎ、まだこれから先、長い時間審議が続くと予想されるので、審議が続いているところではあるが、ここで休憩を入れたいと思う。よろしいか。では、10分の休憩とする。15時15分再開とする。では、休憩にする。よろしく願います。

休憩 午後3時02分

再開 午後3時15分

鮎川委員長 それでは、再開する。
引き続き、生活の説明をお願いします。

今城選定
委員長 それでは、生活の説明をさせていただく。生活は7社である。まず、東京書籍である。東京書籍は、子供の気づきが吹き出しで書か

れており、めあてや活動につなげることができること。スタンドブックというコーナーがある。こちら、入学してすぐの1年生には適切であり、合科的に扱うこともできる。また、季節に沿った教材の配列になっているというところが特徴である。

続いて大日本図書である。子供の表情が豊かな写真が多く、興味が湧く内容になっている。また、生き物の育て方や、よく食べる餌などが詳しく書かれており、とてもわかりやすく構成されている。さらに、体験活動が充実するような児童の活動場面が順序よく載せられており、また、生活言葉というコーナーでは言語も意識した内容となっている。

続いて学校図書である。学校図書は書き込みながら学習ができる工夫がされていたり、野菜の世話の仕方が丁寧に書いてあって説明もとても詳しくなっている。また、アサガオ教材の配列がとても工夫されている。また、君ならどうするというコーナーでは、児童に考えさせ、表現させることができる工夫がされている。

続いて教育出版である。教育出版は他教科との関連記号があり、わかりやすいこと。また、言語活動以外にも、体で種になってみようなどの活動もあり、多様な表現方法が示されている。また、活動ごとに学習を振り返ることができるように工夫がされている。

続いて光村図書である。光村図書は、にこにこ作戦など、喜びから自立を促しているところ、また工夫して遊ぶことのできる活動が多く紹介されているというところがある。また、活動のポイントをどうすれば何々になるかなで紹介し、考える観点をわかりやすくしている。

続いて啓林館である。啓林館は、作品や観察カードが多く取り入れられていて、とてもわかりやすいところ、また、わくわく、いきいき、つたえあおう、ちゃれんじというコーナーでは、構成が多様な学習活動につながる工夫がされている。

日本文教出版である。学習活動がいろいろなパターンで提示されており、指導に合わせて選択できるようになっている。また、登場人物の6人が成長していく様子が写真、イラスト、カードと連動してわかる構成となっている。以上である。

鮎川委員長

では、質問、いかがであるか。福元委員、願います。

福元委員長
職務代理者

生活科の目標では、自分と身近な日々、社会、及び自然とのかかわりについて関心を持ち云々とあるが、先生方はその部分についてどのような工夫がされているとお考えなのか。

今城選定
委員長

どの教科書会社も、開くと、例えばとても大きく虫の顔が写っていて、写真の使い方や、写真とイラストを組み合わせにおいて工夫されている。また、写真がどのような活動につながるかにおいての違いがある。写真とイラストがうまく組み合わさって何をするのかわかりやすくなっているのが東京書籍、大日本図書である。

また、興味・関心を湧かせるために活動の目的がはっきりわかるのがよいと思う。開いたページにめあてが入っているのが大日本図書、教育出版、そして光村図書ということになっている。以上である。

鮎川委員長

ほかに。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

小金井市ではコミュニケーション力の育成とか、地域の連携について取り組んでいると聞いているが、身近な人々や地域の人々とのかかわりについて、教科書にどのような特徴として載っているのだろうか。

今城選定
委員長

地域とのかかわりとしては、まち探検というのがある。まち探検については、どこの教科書会社も取り扱っている。また、地域の中で例えば挨拶をすとか、高齢者から昔遊びを学ぶなどの内容も、各教科書会社は取り入れている。地域とのかかわりについて、東京書籍、啓林館が非常に大きく扱っているという状況である。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問あるか。岡村委員、お願いします。

岡村委員

安全に関する内容について、おのおのの教科書ごとの特徴を教えてください。

今城選定
委員長

安全についてである。各教科書会社ともそれぞれに工夫は凝らしている。例えば、自然とのかかわりの中でいうと、植物、そして動

物関係。例えばこの毛虫には毒があるからさわってはいけないとか。あとは、河川の安全、河川事故の防止ということで、川に近づいてはいけないとか。また、防犯では、今いろいろな学校で取り扱っているが、例えば「いかのおすし」などという標語を使って防犯の扱いを行っていたり、また、防災として震災のことなどを取り入れたりしている。

中でも東京書籍、啓林館、大日本図書、学校図書は、これらの内容については非常にページ数を多く使って説明しているという状況である。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問あるか。よろしいか。

それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。岡村委員、願います。

岡村委員

今ご説明があった安全に関する内容が多く、多くの会社で取り上げられているのだが、東京書籍、大日本、啓林館の教科書ではおのおのの単元で何回も何回もいろいろな単元で繰り返し出てくるので、資料や学習活動がすごく充実していいなと、繰り返しがいいなと思った。

鮎川委員長

山本教育長、願います。

山本教育長

安全に関するページが東京書籍が非常に多くていいと思った。ほかの会社の2倍から10倍ぐらいのページを割いて丁寧に指導しているところが大変素晴らしいと思った。

ただ、どの教科書も生活科についてはよくできているなと思って、私は関心したのだが、もう一つ、東京書籍のほかにいいと思ったのが、学校図書である。なぜかという、虫や何かの育て方とか、何かのつくり方、アサガオ日記の書き方、これは先ほどの今城委員長の報告書のとおりなのだが、野菜の世話の仕方、こういう何々の仕方の秘密という欄で方法、技能というのか、それをきちっと子供に伝えようとしている。

それから、子供たちの日記とか新聞なんかの作品例の表示の写真、実際に子供がつくった作品の写真が一番大きくて、ああ、こういうふうになれば発表する資料ができるんだということがよくわかる。

小さくて読めない会社も何社かあったので、非常に細やかな工夫がされていると思ったが、総合的には東京書籍かなど。全体的に、安全も含めて内容が充実しているかなと思った。

鮎川委員長 先ほど選定委員長からの説明や、今の山本教育長の話にあったアサガオ日記は、皆さんもごらんいただいていると思う。
では、ほかにご意見願います。岡村委員、願います。

岡村委員 私も東京書籍か啓林館の教科書が安全に関する内容やイラストが多く取り上げられていいなと思った。東京書籍に初めてまちの安全ということで、まちの安全の間違い探しというのがあった。コミュニケーションを安全に役立てるという漫画というか、表があって、それがすごく子供たちは興味を示すかな、印象深いかなと思い、東京書籍がよいと思った。

鮎川委員長 ほかにご意見、いかがか。願います。

渡邊委員 東京書籍と学校図書は写真の子供さんのすごい豊かな表情だとか載っているということと、あと、子供の主体的な活動を応援するような資料内容になっているので、気づきを与えるような仕組みがされているということ、両方とも興味が湧くような内容になっているので、そのどちらかがいいのではないかと思った。

鮎川委員長 福元委員、いかがか。

福元委員長 職務代理者 学校にとって、1年生が学校生活を順調にスタートさせるということはとても大きな狙いの1つ、大事にしていることの1つだと思う。今、小1プロブレムなどの声も聞こえてくる。そういう視点から生活科の教科書を見たときに、先ほど委員長が説明の中でお話くださった東京書籍の教科書というのが、生活科を中心とした合科、その指導から徐々に各教科に分化していく、「すたあとぶっく」というのを掲載している。子供たちの入学当初の生き生きとした、明るい、楽しそうな写真がいっぱい載っている。子供たちがそれを見ながら学校生活になじんでいけるのではないかという、そんな気持ちで見ている。

幼児教育と小学校教育というか、そういうものつなぎ役というか、そういう意味で大変有効なのではないかと受けとめている。

鮎川委員長　ほかにご意見、あるか。いろいろな教科書のよいところのご意見がたくさん出ているが、東京書籍がよいというご意見が多数だと思う。福元委員がおっしゃったように、そして、先ほどの調査委員長のご説明にもあったが、この「すたあとぶっく」がとてもよいと思った。私たちが子供のころはなかった生活科という教科であるが、特に1年生、入学したての子の生活の授業というのは大切だと思うので、私も東京書籍がよいかと思う。

それでは、皆様、東京書籍がよいという意見が多く出されているが、生活の教科書は東京書籍でよいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長　では、異議なしということで、生活の教科書は東京書籍に決定する。

では、次に音楽の説明をお願いします。

今城選定
委員長　それでは、音楽は2社である。まず初めに教育出版である。教育出版の特徴は共通教材の写真が大きく見開きがあり、児童の心情に訴えるものがある。曲にまつわるコメントがあり、楽曲の背景や歌詞の内容のイメージがつかみやすいというものがある。

また、音楽的な視野を広げ、現代の生活や心情に即した内容が盛り込まれていて、音楽を愛好する心情を育む内容になっている。さらには、表現活動と鑑賞活動が効果的に組み立てられており、狙いに沿って学習が深まるような構成、配列になっている。さらには、季節に合った構成、配列になっているという特徴がある。

続いて、教育芸術社である。教育芸術社は、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞において適切な教材が使われている。また、子供にもなじみのある教材が多い。楽曲ごとに小さなめあてが書かれているために、とても学習が進めやすい工夫があったり、また音符のコントラストがはっきりしていて見やすい等の特徴がある。

また、題材名で、何を学習するのかがわかるようになっており、若い先生が指導しやすい。さらには、低学年のリズム学習ではリ

ズムがかわいらしく可視化されているため、興味が持ちやすくわかりやすいという特徴がある。以上である。

鮎川委員長 ありがとう。それでは、質問がある方はお願いします。福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者 今委員長の説明の中にもあったのだが、音楽を愛好する心情を育むいろいろな工夫がなされているということであったが、そういう工夫についてもうちちょっとお話しただけであればありがたいと思う。

今城選定
委員長 具体的に申すと、例えば教育出版では、初めに友達と声を合わせて歌う、次に、基礎的な表現、鑑賞について取り組み、最後にみんなでおもしろさ、たのしさ、美しさを感じられるような教材の配列になっている。また、一番最後には、全校で使えるような全校合唱の曲が全学年で取り組めるように工夫されて、配列されているという特徴がある。

教育芸術社では、音楽づくりに大変力を入れていて、歌いながら楽器や、また鑑賞等を関連させながら、子供の主体性や創造性を育む音楽の学習活動を充実させているという特徴がある。以上である。

鮎川委員長 では、ほかにご質問あるか。よろしいか。
それでは、これより協議に入る。ご意見をお願いします。岡村委員、お願いします。

岡村委員 私は教育芸術社がいいと思って、子供に歌わせる歌の選曲とかも、おうちで帰って歌えるような歌が多いのか良いと考えた。それから、教育出版のほうは1ページ目に桜が書いてあって、2ページ目にまた今度は楽譜が書いてあるのだが、教育芸術社は1ページの上に歌詞が書いてあって、下に楽譜が書いてある。そして、右に写真で、私はそっちのほうの方が自分が見やすくて、絵もすごくきれいなので、音楽の時間、みんなでリラックスして歌ったり、リラックスして音楽をよく聞こうという感がでている。魔笛の絵も、すごく教育芸術社のほうがかわいくて、楽譜が見やすいなと思って教育芸術社がいいかなと思ったのだが、いかがか。

鮎川委員長 ほかの皆様、いかがか。福元委員、願います。

福元委員長
職務代理者 教育芸術社は見開きにしたときに、左上に大きくその時間のめあてが書かれてある。これは子供たちにとって、この学習のめあてを意識して授業に臨むことができるし、経験の浅い先生も指導の目標がはっきりしていいのではないかなと受けとめた。

鮎川委員長 渡邊委員、願います。

渡邊委員 私も音楽の専門的なことはわからないが、写真とか説明、詩の部分、表面的に歌うのではなくて、子供が心情というか、その辺の、例えば富士山の歌であると、富士山の写真がたくさん載っている。心が変わると写真も変わるみたいな、多分歌も変わってくるのではないかと思う。そういった意味で、私は教育出版のほうで心の中まで入り込んだ、わからないが、教育がされやすいのかなという気がした。

鮎川委員長 山本教育長、願います。

山本教育長 私もこの2つの教科書を比べてみて、子供にとってどっちが楽しい音楽の授業になるかと思ったとき、私は教育出版のほうで圧倒的にすばらしい教科書だと思った。その理由はたくさんあるが、例えば全部の学年に別な曲なのだが、手話を使って歌の気持ちを伝えるようなページがある。これは音楽の専科の先生に言わせれば邪道なのかもしれないが、私は音楽というのは、ただ1つの曲を丁寧に歌う、きれいに歌うということではなくて、歌の内容をよく理解したり、そして歌のイメージを豊かに持って楽しく歌うということが大切だと思うので、そういう手話のページを見たときに、私は非常にすばらしいと思った。

それから、先ほど渡邊委員がおっしゃったが、見開き、折り畳みであるページを開くと、非常に歌に関連する美しい写真がぱっと。それ、富士山の写真とかが飛び出してきて、これなんかも写真を見ながら歌うと、子供たちはとても心が富士山の麓にいるような気持ちで歌えるのかなとか。

それから、同じように見開きのページでオーケストラの楽器の並

んだ説明の写真が出てきたりとか、音楽の楽譜以外の写真や説明が非常にサービス満点で、次から次に出てくる。もしかしたら、これは先生たちにとっては煩わしいのかなと思ったんだけど、子供にとっては、私はこういう教科書のほうが楽しいだろうと。私も素人なので。

それで、曲数なんかも資料を見てみたら、歌の数が全部で教育出版は168曲で、教育芸術社は149曲。鑑賞曲が教育出版が124曲で、教育芸術は90曲と、圧倒的に差がある。だから、これも先ほど、そちらの岡村委員と福元委員がおっしゃったように、選曲しながら、いい曲を絞っているのがおそらく教育芸術社で、余計な説明や写真をできるだけ少なくして、音楽そのものに集中させるような教科書づくりをしているんだろうなという意味では、全く正反対の教科書づくりをしているんだなと。

しかし、どっちが子供にとって有意義か、楽しいかとなったら、私は断然教育出版だろうと思った。

鮎川委員長

今意見が分かれている。教育出版は、先ほどお見せしたが、富士山、桜、紅葉など、とてもきれいな写真が、視覚的にも美しいと思う。低学年だけであるが、透明ページが入っていて、見て楽しい、音楽を好きになる要素もたくさん工夫されていると思う。

岡村委員

教育芸術社の富士山も、同じページに歌詞が書いてあって楽譜がその下にある。教育出版だと写真があるから、次のページには楽譜だけで歌詞が別に書いていないから、読むときにこっちを読んだりとかしないといけない。私は能率を考えるので、こっちのほうが好きである。叙情的に見て、ここで楽譜で歌う。ここだと、楽譜のほかに歌詞があるから、見やすいというか、富士山を見ながら歌える。こちらは富士山を見て歌えない。これは、好みなのだろうか。教えやすいほうはどちらかと考えた。

鮎川委員長

音楽の教科の場合、小学校では高学年は専科の先生がご指導されるが、低学年は担任の先生が音楽をご指導されるということもあるので、低学年と高学年では、指導方法も、指導する教員も違う。また、見て好きになる、視覚的な効果が高いものが低学年はいいと思うが、今岡村委員がおっしゃったとおり、1ページ、見開きでまと

まっていると、高学年にとってはシンプルでよいと思う。

この東京都教育委員会の資料では、先ほど山本教育長がおっしゃったとおり、曲数に関しては教育出版社のほうで、圧倒的に多い。鑑賞に関しては30曲以上の教育出版社のほうが多く、歌唱の曲も20曲近く多くなっている。ただ、この教育芸術社のほうも楽譜の見やすさ等、すぐれている。また、先ほどの調査選定資料でも、あと福元委員も先ほどおっしゃったが、楽曲ごとの小さなめあてが書かれているという点で、子供たちにとってはめあてがわかりやすいと思う。意見が2つに分かれているが、もう少しお考えいただけるだろうか。

選定調査委員長のほうから、何か補足のご説明などがあつたら、願います。

今城選定
委員長 特にはないのだが、この資料をもう一回中身、じっくり見ていただけるとありがたいと思う。

鮎川委員長 副委員長のほうから、何か補足のご説明などあるか。

今城選定
委員長 1つ、伝統文化というか、その点で邦楽を今音楽でもかなり重視して入れているところがあるが、この伝統文化を重視するという点から比較させていただくと、まず教育出版のほうは日本の楽器を訪ねてということ、お琴であったり、尺八であったり、今様とかいう写真を取り入れて大きく扱っている。また、鑑賞教材にも取り入れているところがある。

教育芸術社のほうでは、日本のお祭りという取り扱いもあり、民謡が出てきたり。また、今度はグローバル化というのか、世界に広がってということ、外国の歌と日本の歌を比較しながら学習できるような、そんな工夫がされているところが特徴であると思っている。

鮎川委員長 伝統文化についてのご説明があつたが、追加のご説明もあわせて委員の皆様、ご意見、もしくは、よいと思うお気持ちが変わったか。

山本教育長 日本の伝統文化というのは私も非常に関心が強いのだが、今の今

城委員長の発言を聞いてこの資料を見ていたのだが、数値的に言うと、和楽器の扱いが教育出版のほうは3・4学年で2つ、5・6学年で3つで、合計5つ。教育芸術社のほうは3・4年で1つ、5・6年で1つで、2つ。やっぱりこの差は非常に大きな差があるのだろうなど。

ページは厚いと思うのだが、幅広くいろいろなものを紹介しようとする教科書が教育出版で、絞ったところを丁寧に教えようとするのが教育芸術社の方針なんだろうなど。民謡についても教育出版は4曲、教育芸術社は1曲という、こういう資料を見ても、かなり特徴に差があるかなと思う。私は伝統文化を大切にしたいので教育出版にこだわりたいのだが、ただ、ここは5人いるので、3人の方が教育芸術社のほうがいいんじゃないのということであれば、私も専門家でないのでそんなにこだわらない。ただ、保護者なんかから見たら、推測であるが、教育出版を何で選ばなかったのと、ほとんどの方が言うかなという気はした。

鮎川委員長 福元先生、小学校でのご指導の経験から何かご意見があったら、
願います。

福元委員長 今のお話を伺っているながら、非常に大きな差で言ったのではなくて、
職務代理者 並べたときに私が最も感じたところがそこにあったということ
である。どう考えればいいのか私も今迷っているところである。

教育出版のよさというのも幾つもある。私が見ただけでも、写真
が大きくて、絵も多いとか、社会科との関連等も図っていて、5年
生だと民謡と地図をつけて各地の特産物を入れるとか、6年だと、
どのような時代にどんな音楽ができたか、その社会科とのつながり
をつくっている。何が何でも教育芸術社という受けとめ方はしてい
ない。

岡村委員 私もたくさんあったほうがいいかなと思うが、例えばスキーの歌
だと、教育芸術社だと旋律の音の上がり下がりやリズム、特徴を生
かして歌いましょうと書いてあって、この歌は今から80年ぐらい
前につくられた。当時は今のようなスキー場ではなくて、スキーを
担いで雪山を上ると書いて、新しい雪の上をスピードに乗って滑り
おける喜びがこの歌から伝わってくるという、旋律の上がり下が

りや、リズム、特徴を生かしていこうというのがいいかなと思って。

スキーの歌、こちらもしスキーのときのスピード感やわくわくする気持ちを思い浮かべて歌いましょうと書いてあるのだが、具体的に旋律の音の上がり下がりやリズム、特徴を生かして歌おうと書いてあるほうが、私としては好みなのである。なので、教育芸術社というのが一押しである。

鮎川委員長 スキーの歌というのはこちらのページである。

岡村委員 こっちの旋律の上がり下がりやリズムの特徴を生かして歌おうと書いてあるところがいいかなと。みんな他の曲の解説もそんな感じなのである。

鮎川委員長 これが福元委員が最初におっしゃった、学習のめあての部分ということか。

岡村委員 そうである。上に少し説明があつたりして、私情的に、教育芸術社を推す。

鮎川委員長 わかった。もうしばらく協議を続けたいと思う。先ほど福元委員もおっしゃった、どちらかが良くないというわけではなく、どちらもよいということであるか。

福元委員長
職務代理者 要するに大差があるとは思っていない。ただ、子供や先生たちが使いやすいのではないかということである。

岡村委員 何か欠点があつたりするわけではない、両方とも。

鮎川委員長 そうである。おっしゃるとおり、どこかよくない部分があるわけではなく、どちらのほうがよりよいかということである。なので、どちらもよいところがたくさんあるのだが、どちらか1つを決めなくてはいけないので、時間がかかって申しわけないが、もうしばらく協議を続けたいと思う。何か、その後、追加のご意見等あつたら、お願いする。

渡邊委員 先ほどと同じなのだが、またもう一回見ているのだが、日本中のお祭りの写真がずっと載っていて、春夏秋冬と。私、多分知らないところもたくさんある。音と踊りと映像、私の経験では全部音が流れると、昔の映画を思い出したりするので、その辺が一緒になっているほうが私としては。音楽だけだと、多分音楽だけで終わってしまう感じで。映像と音楽というのは一緒だという感覚が私は強い。

やっぱり小さいうちから、何でもそうだが、最初にそういった教育をしたほうが、音楽だとか、両方しているのだが、音楽だけで教えるよりも、写真が豊富なほうが心が豊かになるのではないかというのが、個人的なんだが、そんな思いがした。

鮎川委員長 「個人的な」というお言葉をつけたのは、調査研究していただいた上でということであろう。

山本教育長 これは、選定調査委員会の委員長さんと副委員長さんに参考までにお聞きしたいのだが、中学校だと音楽の比較的若い女の先生の授業で、子供たちが気が散ったりして、生活指導が難しくなる事例がある。であるから、小学校でも、先ほど言ったように素朴で楽譜だけが載っている教科書のほうが、子供たちは集中するということがあるのか。

私は教育出版のほうが華々しくてよいのではないかとっているのは、その辺、どうなのか。

今城選定委員長 一長一短あるのかなと思う。こっちということはなかなか言えないのだが、その子供、子供の特性にもよるであろうし。先ほど特に委員長がおっしゃったように、小学校音楽の場合には、一時的にいうと小さい、低学年の子供たちは学級担任が指導するところがあり、小規模校だったら、音楽の先生が1年生からというのはあるが、一般的には低学年のあたりは学級担任が行う。中学年から高学年になると音楽専科の先生がより専門性の高い指導をする。

子供たち、音楽の大きな目標というのは、やっぱり音楽に親しむ、音楽が楽しい、歌いたい、合奏したい、演奏したい、そういった興味・関心をいかに高めるかということだと思う。そういうのを補うのがこの教科書の役割でもあるだろうから、そうなった

ときに、いろいろな情報が入っていることによって子供たちの興味・関心が高まるというのあれば、シンプルで1つの曲に集中して学習していくというの、それが合っているお子さんもいるのだと思うが。

私の意見を言ってよいか。そういう見方があると思うが、より情報をいかに子供たちに与えるかの資料がこの教科書であるから、そういう意味では、さまざまないろいろな興味・関心を引く資料が載っていることというのは非常に重要なのかなと感じている。

鮎川委員長 今城選定調査委員長から、山本教育長に対するご回答と追加のご説明があったが、委員の皆様、何かご意見、ほかにあるか。

山本教育長 私は、何度か言ったのだが、専門家ではないので、多分どちらにもよさがあると思うので、そちらのお2人がなかなか意見を変えないので、鮎川委員長がまだ意思表示されていないので。だから、私はいい。多分どちらでもいいところがあると思う。問題は、それを使ってどうやって音楽を楽しく教えていくかであるから、それは音楽の先生の技量にかかっているわけで、この教科書だからいい授業はできないということにはならないので。だから、私は鮎川委員長が意思表示をしていただければ、それでいいのではないかと考えている。

鮎川委員長 きちんと意思表示をしない委員長で申しわけない。教育委員会は合議制ということで、例えばどちらかに意思表示をすると、数の上では3対2になるが、だからといって決まるわけではないわけであろう。

山本教育長 決まる。それで、いずれにしても、私は国語のときもおりたが、もし少数であれば、わかったということで全員一致という形でも結構である。

岡村委員 そうである。両方ともいい。両方ともいいから、この2冊になってしまったから選びづらい。

山本教育長 両方の委員はわかっているので。

岡村委員 だめと言っているのではなく、より好きだという形なので。よりよさそうと。

鮎川委員長 わかった。議事進行が未熟で申しわけない。もう一度、岡村委員から順に、ご自身の最終的なお考えを伺いたいと思う。お願いします。

岡村委員 私は教育芸術社のほうが叙情に訴える感じがするのと、同じページに、こちら側に音符があって、こっち側に歌詞があるという構成が好きである。先生がおっしゃるように、叙情的に前を見て、歌詞を見て、次に歌うというときに、音符に字が書いてあるのもそうであるが、右側のほうに縦に文字が書いてあったほうがよりわかりやすいかなと思った。

それと、単元、目標である。

福元委員長
職務代理者 全体のことを考えなければ、やはり教育芸術社のあらわし方、使いやすいかなど思っている。ただ、それにこだわるわけではなくて、教育出版のよさというのも幾つも出ているので、その辺は皆さんで一番いい教科書を見つければいいのではないか。

鮎川委員長 現時点でどちらか。

福元委員長
職務代理者 教育芸術社。

鮎川委員長 教育芸術社ということか。

渡邊委員 私は教育出版が写真等、目から入る情報が非常に多いので、そちらのほうがいいと思う。

山本教育長 繰り返しになるかもしれないが、手話で歌うとか、さまざまな活動につながるような興味深い教科書が教育出版であるということ。それから、新しいことを1つ言うと、こんなに何で編集方針が違うんだろうと思って、後ろの編集、著者のところの名前を私、見てみ

て驚いたのが、やはり教育出版のほうは小学校の先生とか、それから大学の先生、おそらく小学校、中学校の経験のおありの方がほとんどが教育者なのだが、教育芸術のほうは教育関係者ではなくて、ほとんどが専門の音楽家ということで、ああ、だからこんなに違うんだろうと。

だとするならば、子供の気持ちにどちらが寄り添っているのかというと、教育出版だろうと感じたわけである。

鮎川委員長

私も両方ともよいところがたくさんあると思う。例えば視覚的な部分について、先ほど岡村委員がおっしゃったこともとてもよくわかる。1つの見開きでまとまっていたほうがわかりやすいということに大変共感した。福元委員も、岡村委員もあわせておっしゃっていた「めあて」、これも大変指導しやすいものだと思う。子供たちも、気持ちを思い浮かべながら歌うということがとてもよくわかってよいかと思う。しかし、低学年のことを考えた場合、視覚的なものが重要ということを見ると、教育出版社のほうは視覚的に美しさと、迫力などがあるかと思う。

高学年の、音楽専科の先生にとっては教育出版社よりも教育芸術社のほうが使いやすいという先生もいらっしゃるのかもしれないが、音楽専科の先生方はおそらく教科書に頼らずとも、ご自身で授業を発展させて下さると思う。最後に私の意見としては、低学年の子供たちにとって音楽の興味を保ち続けられるであろう教育出版社がよいと思う。これが私の意見となる。

ただ、教育委員が5人いて、このような形で決めてよいものか。こちらの意見のほうが多いということで決めてよいか判断をしかねるところではある。私が意見を申し上げたことにより、何か反対意見等あったら願います。岡村委員、願います。

岡村委員

渡邊先生がおっしゃったように、叙情的に詩から入っているか、便利かという違いで、そちらのほうがいいというご意見が多ければ、それでいいと思うし、すごく納得できるので、私も教育出版でいいと思う。

鮎川委員長

福元先生、いかがか。

福元委員長
職務代理人

私も岡村委員と同じである。

鮎川委員長

それでは、福元委員と岡村委員も教育出版社の教科書に決定でよいということによろしいか。そうすると、音楽の教科書に関しては、教育出版社ということで、皆様、ご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長

それでは、音楽の教科書は教育出版社に決定する。
続いて、図画工作の説明をお願いします。

田尻副
委員長

それでは、図画工作について、開隆堂と日本文教出版、この2社について申し上げます。まず、開隆堂であるが、巻末に基礎基本の知識、技能、安全などの学年、発達に合わせて体系的に掲載しているので、児童がつくるとき確認しながら製作ができるようになっていける。また、自己選択をして発展させていけるよう、さまざまな作例も載せてある。各学年の発達段階に応じて、造形、立体、平面など、同じ表現が続かないようにバランスよく構成されている。また、折り込み3ページを使った鑑賞教材としての小さな美術館、伝統のわざを学ぶとしての小金井の伝統工芸品の紹介もあり、工夫が見られる。

日本文教出版である。造形遊びの楽しさから児童の自主性を育む教材が豊富である。また、身近な材料から発想を膨らませられるような工夫がされている。児童がやってみたい、つくりたいと思える魅力ある題材が掲載されており、児童が楽しく活動している写真も載せられているので、表現活動の魅力を伝えることができる。以上である。

鮎川委員長

それでは、質問のある方はお願いします。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

図工というような技能というのか、ものをつくったり、描いたりするような、そういった作業が苦手なお子さんもいると思う。そういった子供たちにもっと興味を持って、関心や意欲を高めるような教科書の工夫というのはあるのか。

田尻副
委員長 技能を伴うものはどうしても苦手な児童が出てくるが、2社とも、日常的に身近にある材料を使って楽しむことや、図や写真を多く用いるなどの工夫がされていて、子供たちの関心を引きつける工夫になっている。開隆堂でいうと、題名や解説文に新鮮で魅力のある工夫が凝らしてあり、また、身近な生活に生かされていることを実感するような取り上げ方もしている。

日本文教出版では、児童作品や授業風景の写真は、子供たちの生き生きした表情で活動しているものが多く掲載されていて、この教科書を開いて使うときに、自分たちもそのように活動しようという思いが湧いてくる。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問あるか。岡村委員、お願いします。

岡村委員 この授業を行うについて、安全面について、各教科書の記載はどのような特徴があるのか。

田尻副
委員長 安全面は欠かせないところである。日本文教出版では、活動の際に特に注意しなければいけないことや、安全に関することを、開いたところのページに「気をつけよう」の表示で、ピンクの感嘆符と三角のマークを用いてわかりやすく表示している。開隆堂では、活動の際に特に注意しなければいけないことや、安全に関することを巻末の工具箱のページで示してある。2社とも安全面について十分注意を施され、それを指導者が子供に示して、使いやすいような構成になっている。

開隆堂には草木や動物を使う、造形活動に対してはアレルギー対応として感嘆符と黄色い三角マークを用いた安全コーナーがあるのが特徴になっている。以上である。

鮎川委員長 ありがとう。ほかにご質問あるか。よろしいか。

それでは、協議に入る。ご意見お願いします。山本教育長、お願いします。

山本教育長 小学校の図工の教科書というのは、とても子供たちの造形の活動を大切にして、私たちが、これが図工の教科書なのかなと思うぐら

い、生き生き伸び伸びと子供の作品にあふれていて、その点では両方の教科書ともとてもすばらしい教科書だなと思った。ただ、私は世界の歴史的な名作なんかも多少は鑑賞させたほうがいいなという考え方を持っているので、そういう意味では開隆堂が最初のほうで見開き3ページを使って、小さな美術館ということで、ページ数はそんなに多くないのだけれども、日本や外国の作品を紹介しているというところがあったので、開隆堂のほうがちよっといいかなと思った。

鮎川委員長 ほかの皆様、ご意見お願いします。福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者 開隆堂、日本文教出版も1つ1つの学習において、それぞれに左上に題材名と学習のめあてが載っている。ああ、これはどっちになってもいいなと思って見ている。しかし、開隆堂は右下に振り返って話し合うコーナーをつくって、やりっ放し、つくりっ放しに終わらないで、学習のまとめとその振り返りを子供たちに意識させるような工夫がある。そういう意味で開隆堂がいいかなと受けとめている。

鮎川委員長 岡村委員、お願いします。

岡村委員 どちらの教科書も多くの児童の作品が載っていて、ほんとうに子供たちが、楽しく思い、やる気が出るなと思った。また、日本の各地の伝統と文化に触れるコーナーがあって、その中で開隆堂が伝統のわざを学ぶという、小さいコーナーであるが、小金井の江戸小紋を載せていた。ちょうど身近に感じられるかなと思って開隆堂がいいかなと思った。目次に開隆堂は、右のところに材料がまとめて書いてある。私は、何を使っているか目次にばっと書いてあるから、すごくわかりやすいなと思って、開隆堂がいいかなと思った。

鮎川委員長 ほかにご意見あるか。渡邊委員、どうか。

渡邊委員 私も開隆堂のほう題材としていろいろな素材というか、身近なものを扱って、例えば家にあるような箱だとか、そうしたもので何

かをつくるような例が載っているので、そちらのほうが親しみやすいのではないかと思った。

鮎川委員長 図画工作は皆様が開隆堂がよいというすっきりとした意見でよかった。それでは、皆様、開隆堂がよいというご意見なので、図画工作の教科書は開隆堂でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 異議なしということで、図画工作の教科書は開隆堂に決定する。では、次に家庭の説明をお願いします。

今城選定
委員長 それでは、家庭である。2社が出ている。それでは、まず東京書籍である。東京書籍の特徴は、日本の伝統的な文化を紹介しており、学習を深めることができやすい。同時に、品質マークの紹介や環境に関する資料などが豊富に入っている。さらに、どの単元も3段階で構成され、見通しを持って学習を進めることができるという工夫がなされている。

続いて開隆堂である。開隆堂は、衣・食、この領域の基本的な技能面の説明がわかりやすく、一つ一つの用語が細かく丁寧で内容が充実していること。栄養の働きによる食品分類の表の色、食品数が適切でわかりやすいこと。また、実習と座学の内容がバランスよく配置されていて、児童の発達段階に合った分量で適切であり、また繰り返しや積み上げ学習で基礎基本の定着を図ろうという工夫がなされているというところである。以上である。

鮎川委員長 質問のある方、いらっしゃるか。岡村委員、お願いします。

岡村委員 現在、食育の推進がすごく大切と考えられて、家庭科はすごく大切だと思っている。2社であるが、食に関し、今、成分表のことを言っていらっしゃったが、どういう工夫があるのか。

今城選定
委員長 この2社の食育推進の観点の特徴であるが、2社とも調理器具の扱い、または野菜をゆでる、ご飯、みそ汁をつくる等の流れになっている。次に朝食、または1食分の献立、そして自分の食生活を見

直していこうというような流れをつくっている。

各教科書会社の特徴になるが、まず東京書籍のほうはテーマが朝御飯や栄養と、わかりやすくなっている。テーマとして掲げ、食育に関しての意識を高めていけるように構成されている。開隆堂は、ページに食育マークがあり、色分けした見出しもあって、とてもわかりやすい構成となっている。お米を扱う時期が秋になっており、他の教科との関連を図ることができるように工夫されている、そういう特徴がある。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問、あるか。よろしいか。
それでは、協議に入る。ご意見、願います。

岡村委員 写真とイラストの使い方にそれぞれ特徴があると思うのだが、学習の初めに開隆堂では写真を使って全体のイメージを持たせるように工夫がしてあって、両方ともいいのだが、開隆堂のほうが統一感があるかなと思った。

鮎川委員長 ほかの皆様、いかがか。福元委員、願います。

福元委員長
職務代理者 安全指導面で見えたのだが、東京書籍はピンクの囲みの中に留意点がまとめられていて、さらに詳しく知りたいときは巻末ページを開くよう指示が書かれている。

それから、開隆堂は1回の調理実習が見開きページにまとまっていて、注意点もその中に書かれているのでわかりやすい。一目でわかる紙面のほうが子供にとっても使いやすいし、先生にとっても指導しやすいかなと思うと、両方ともよくできてはいるのだが、開隆堂のほうがいいかなという受けとめ方をしている。

鮎川委員長 山本教育長、願います。

山本教育長 じっくりと比較しながら読んでみたのだが、非常に特色があるかなと思ったのは、東京書籍のほうは自分の生活の状況を見つめながら、ここはどうなんだろうと考えて自分で書き込みをする欄が非常に多い。それに対して、開隆堂のほうはそういう欄が比較的少なく、説明が非常に詳しい。どっちがいいんだろうと思ったのだが、おそ

らく家庭科というのは料理をつくったり、裁縫したりとか、いろいろな子供として活動が中心になれば、何かわからなかったときに詳しく説明してあったほうが実質的に有効な教科書になるかなと思ったので、開隆堂のほうがいいと思う。

鮎川委員長 渡邊委員、いかがか。

渡邊委員 食育ということが言われていて、その中で食材というか、両方とも豊富に載っていてよかったと思うが、特に開隆堂さんのほうが学校給食の写真というか、イメージが強いので、子供たちにとっては実際に食べるものと、教材と、似たところがあったほうがわかりやすいのではないかと思った。

鮎川委員長 では、ただいま皆様、開隆堂のほうがよいというご意見であったので、家庭の教科書は開隆堂ということでよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 では、ご異議なしということで、家庭の教科書は開隆堂に決定する。

では、次に保健の教科書をお願いします。

田尻副委員長 保健について説明させていただく。保健は5社ある。それぞれの特徴を申し上げる。東京書籍であるが、災害、健康被害の様子を写真で載せていてわかりやすくなっている。特にシンナーの害の怖さ、2ページにわたって掲載されているが、怖さが児童には伝わりやすくなっている。5年生のけがの防止が、自然災害によるけがの防止と細分化されて、設定が1時間多くなっているところが特徴である。また、まめちしきや広げようのコーナーは、発展的な学習によいヒントや資料になる。

大日本図書である。発展学習で命、受け継がれていく命として、人の誕生や震災のことに触れられている。また、3・4年生版にはシールがついていて、児童の魅力が高められるようになっている。単元の導入が、絵を見て考えさせる構成になっていて、説明は少なくしてあるのが特徴である。

文教社である。テニスの錦織圭、Jリーガーの佐藤寿人選手など、トップアスリートからのコメントが掲載されていて、児童への説得力につながっている。単元最後のこれからの自分へは、学んだことを実生活に生かすきっかけになっている。また、大切な部分の記述に色つきの背景や目立つ文字が使われており、わかりやすくなっている。

光文書院である。津波や地震など、緊急災害時の避難行動や対応が明確に書かれてある。食育と関連させている単元があるなど、他教科への広がりを持てるところがある。思春期の体の変化では丁寧に説明がされており、わかりやすい内容になっている。学んだことをもとの欄は、学習したことを確認できるようになっている。

学研教育である。思春期の悩みやその解決方法について丁寧に触れられている。また、レントゲン写真や顕微鏡写真、実験写真など、特殊な写真が豊富に掲載してある。単元終わりに学習のまとめが1ページあり、学習内容をしっかり押さえることができる。さらに、もっと知りたい、調べたいが充実し、発展的な学習への意欲が高まるようになっている。以上である。

鮎川委員長 ありがとうございます。ご質問ある方、いらっしゃるか。では、山本教育長、お願いします。

山本教育長 心の健康ということについての指導が非常に大切な時代だと思っているが、子供たちのいじめ問題をはじめとして、自分の心をよく理解して友達と親しくつき合っていこうよという、その辺の指導はどのようにまとめていらっしゃるか。

田尻副
委員長 心の健康については、6年生の学習で各社とも10ページから12ページというページ数で扱っている。その中で不安、悩みへの対処はどの会社も4ページ以上使われていて、かなりのボリュームがある。不安や悩みを持ったときに自分に合った対処方法や相談先についても掲載してある。思春期の心の変化として大きく取り上げている会社や、体育の体ほぐしの運動を紹介して、体育の連携を図るなど工夫している会社もある。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問あるか。岡村委員、お願いします。

岡村委員 今学校安全法とかいろいろ言われているが、それ以外にも今日的な問題である防災と安全、教科書、会社ごとによって取り上げ方がどう違うか。

田尻副
委員長 5年生、けがの防止という単元があるが、その中で防災、安全について扱っている。従来からけがの起こり方とか交通事故の防止、あるいは学校や地域でのけがの防止、けがの手当て、最近では犯罪被害防止や自然災害から身を守ることについて大きく取り扱われている。

自然災害については、発展的に扱っている会社が4社。1社は東京書籍であるが、単元として扱っている。地震と津波についてはそれぞれ2ページ、計4ページ。大きく扱うきずなど題して、震災のことで生命の誕生のことを同時に扱うといった、これは大日本図書であるが、特徴の会社もある。以上である。

鮎川委員長 ありがとう。ほかにご質問、あるか。よろしいか。

それでは、これより協議に入る。ご意見を願います。山本教育長、願います。

山本教育長 どの教科書も大変よくできているなと思って読んだのだが、特に東京書籍が一番いいと思ったのは、先ほど田尻校長から説明があった、けがの防止というところで、自然災害について扱っている。東京書籍以外の4社は発展教材として項目が別立てになっているが、東京書籍だけは交通事故や犯罪被害防止等に並べて単元として扱っている。この辺は編集者がしっかりと課題意識を認識して、教科書全体を編集したんだろうなという気がした。ほかにいろいろなところがあったのだが、取り立ててここだけ説明させてもらったが、東京書籍がいいと思う。

鮎川委員長 ほかの皆様、いかがか。

岡村委員 心の健康の視点のところ具体的な対処方法を掲載しているのは東京書籍、光文書院、大日本図書とも、3つともよく書いてある。困ったときに自分の気持ちを上手に伝えたりすることを示したり、

具体的に困ったときにかける電話番号や連絡先のメールアドレスとかを書いてあったりして、3社ともいいなと思った。

鮎川委員長 ほかの皆様、いかがか。では、渡邊委員、お願いする。

渡邊委員 やはり子供の視点から見ると、教科書というのは、たばこにしても、何にしても、その前段階でそういった知識が入っていないといけない。それで、おそらく3・4年生のほうにそういった内容になっているのではないかと思ったのだが、その写真だとか挿絵とか入っていて非常にわかりやすかったということで、私は東京書籍と学研の2社がよかったと思う。

鮎川委員長 福元委員、いかがか。

福元委員長
職務代理者 学習の構成から見たときに、学習したことを生かして課題に取り組めるような工夫をしているのが東京書籍、文教社、学研だと思う。今までの話を聞いていると、東京書籍が一番押しかなと考える。

鮎川委員長 ほかにご意見、あるか。皆様から東京書籍、文教社、学研教育みらい、大日本図書、さまざまなご意見が出ているが、皆様が共通して押しているのは東京書籍であると思う。保健の教科書は東京書籍でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 では、異議なしということで、保健の教科書は東京書籍に決定する。

それでは、平成27年度小金井市立小学校使用教科書の採択については、国語が光村図書、書写が光村図書、社会が教育出版、地図が帝国書院、算数が学校図書、理科が大日本図書、生活が東京書籍、音楽が教育出版社、図画工作が開隆堂、家庭が開隆堂、保健が東京書籍と決定する。

以上で平成27年度小学校使用教科書の選定を終了する。どうもありがとう。

次に、日程第3、議案第20号、平成27年度小金井市立小・中

学校特別支援学級使用教科用図書の採択についてを議題とする。提案理由につき、ご説明をお願いします。

山本教育長 提案理由についてご説明する。地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第6号の規定に基づき、平成27年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択をする必要があるため、本案を提出するものである。細部については担当から説明するので、よろしくご審議の上、ご採択賜るようお願い申し上げます。

河合指導室長 指導室長である。市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条第6号に基づき、小金井市教育委員会が毎年採択することとなっている。また、特別支援学級においては学校教育法附則第9条により、文部科学省検定済み教科用図書、または文部科学省著作教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるとしている。

各学級においては各学校長を委員長とした調査研究委員会で、児童生徒の障害の種別、程度、能力、特性にふさわしい内容であるかを調査研究し、このたびお手元の資料のように各学級ごとの案として提出させていただいた。採択のほど、よろしくをお願いします。

鮎川委員長 事務局の説明が終わった。何かご質問、ご意見はあるか。岡村委員、お願いします。

岡村委員 提案された教科書について、今から協議すればよろしいということか。

高橋指導室長補佐 ご指摘のとおりである。

鮎川委員長 ほかにご質問。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員 現在使用されている教科書用図書で変更した図書というのはあるのか。

高橋指導
室長補佐

小金井第一小学校、小金井第一中学校、及び小金井第二中学校では、現在使用しているものと変更した教科用図書はない。また、自閉症、情緒障害固定学級である小金井第一中学校のⅠ組は全種目、全学年において、小金井市立中学校使用教科書を使用する。小金井第二小学校及び東小学校では、変更した教科用図書がある。小金井第二小学校では、社会で使用する一般図書を、資料にあるように「小学生のための学習日本地図」というものに変更した。東小学校では、国語の一般図書を、資料にあるように「レインボー ことば 絵じてん」というものに変更した。また、生活の6年は、資料にあるように「心をそだてる子どもの歳時記 12カ月」というものに変更した。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問はあるか。福元委員、お願いします。

福元委員長
職務代理者

小金井第二小学校と東小学校で一般図書の変更があったが、変更した理由を教えてください。

高橋指導
室長補佐

特別支援学級では児童の実態に応じて教科書を使用する。小金井第二小学校（さくら学級）の児童、及び東小学校（ひまわり学級）の児童の障害など、児童の状況に応じて調査研究をしていただき、その結果の変更である。小金井第二小学校の社会の一般図書を変更した理由は、従来使用していた一般図書が教科書会社のほうでリニューアルされたためとなる。

東小学校の国語及び生活で使用する一般図書の変更については、児童の発達段階に照らし、児童の興味や関心、学習意欲を一層高めることを狙いとして変更した。以上である。

鮎川委員長

ほかにご質問あるか。渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

学校側の選定した一般図書を見ると、社会や理科などを扱う一般図書が生活に含まれてしまっているのだが、社会や理科の教科書用図書というのはないのか。

高橋指導
室長補佐

知的障害学級の教育課程編成についての話になる。この編成では、児童・生徒の障害の状態に即した指導を進めるために、日常生活の

指導、遊びの指導、生活体験学習、作業学習などで各教科等の全部、または一部を合わせた授業を適切に組み合わせて指導が行えるようになってきている。このことを受け、社会、理科の教科用図書については、知的障害特別支援学校小学部の教科である生活として扱い、教科用図書をとることができるため、3年生から6年生までの間で資料にお示しした社会と理科の内容を含む一般図書を選定している。そのため、社会と理科の教科書がない。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問あるか。岡村委員、お願いします。

岡村委員 同じような小学校でも学校ごとに教科用図書の選定や使い方が違うようだが、それはどうしてなのか。子供の障害に応じたためか。

高橋指導
室長補佐 ご指摘のとおりである。同じ学年にあっても、児童の障害の状況に応じて各学校で教科用図書を選定している。教科用図書の選定に当たり、学校では児童・生徒の障害の種類や程度、能力、特性に最もふさわしい内容、例えば文字だとか、表現だとか、挿絵、また取り扱う題材なども含めてのものであるが、そのようなものを可能な限り系統的に編集されているか、また、教科の目標に沿う内容が適切であるかなどを考慮し、研究を進めていただいた結果である。以上である。

鮎川委員長 ほかにご質問、ご意見あるか。よろしいか。ここまでご質問がずっと出ていたが、何かご意見等、あるか。それでは、特にご意見がないということで、お諮りする。

平成27年度小金井市立小・中学校特別支援学級使用教科用図書の採択については、原案どおり可決することにご異議はないか。

(委員一同異議なしの声)

鮎川委員長 では、異議なしと認める。本案は原案どおり可決することと決定した。

次に日程第4、報告事項を議題とする。1、その他、学校教育部から報告事項があればお願いします。

天野教育部長 特にない。

鮎川委員長 生涯学習部から報告事項があれば、お願いします。

西田生涯
学習部長 ない。

鮎川委員長 では、2、今後の日程。今後の日程について報告願う。

中島庶務係長 庶務係長である。今後の日程については7月8日の教育委員会
でご報告した日程と現在のところ変わらないので、説明を省略させて
いただく。以上である。

鮎川委員長 以上で報告事項を終了する。

以上で本日の審議は全て終了した。これをもって平成26年第8
回教育委員会定例会を閉会する。皆様、お疲れさま。

閉会 午後4時47分